

IV. 成果と課題

研究の三つの柱と学びを支える基盤づくりの4点について、成果(○)と課題(●)を以下に述べる。

- 指導事項と児童の実態を基に、つけたい力を精選して単元を組み立てることで、単元での学びが深まった。教師が B 規準を明確に持ち、単元のゴールとなるモデルを作成し児童と共有することで、児童は見通しを持つことができ、単元のゴールに向けて主体的に学習に取り組んでいた。
- 対話的に学ぶ場を意図的に設けたり、友達と話したいという児童の必要感からペアやグループでの話し合いを取り入れたりしたことにより、自分と友達の意見や考え方を比較したり、友達から新たな気づきを得たりして考えを広げている姿が見られた。
- 具体的な視点に沿って自分の学びを振り返ることで、児童は 1 時間や単元の中で自分について力を確かめることができた。また、教師が振り返りの視点を示すことで、ねらい達成につながったのかを確認したり、振り返りの内容を基に児童の成長を認めたりして、児童の学習意欲の向上につなげることもできた。
- ことばの力を育むために、図書館司書と協力して各学年に「おすすめの本」を設定したり、単元の初めに図書館司書によるブックトークを取り入れたりすることで、幅広く図書に親しむ姿が見られた。また、生徒指導の三機能を生かした授業づくりに努めることで、安心して学習できる環境をつくることができた。
- B 規準として設定した目標が正しかったのか、検証していく必要がある。また、B 規準に達する児童の具体的な姿をどのように評価していくのか、評価場面、評価方法についても今後研究を深めていく必要がある。
- 児童が対話を通して考えを深めきれなかったのは、職員間で対話を通して自分の考えを深めている姿のイメージが共有されていなかったためと考えられる。今後、児童のどのような姿が認められれば学びが深まったといえるのか、教師自身が考えを深めている児童の具体的な姿を想定して取り組みを進めていけるようにしたい。また、児童の話し合いのスキルを向上させるために、効果的な方法を共有し共通実践していく。
- 視点に沿った振り返りを行うことができたが、振り返りをするための時間の確保や振り返りの方法に課題が残った。児童が振り返りを行うことで学びを自覚化できるように、単元計画の中で振り返りの場면을計画的に位置づけたり、児童の実態に応じてチェックシートによる振り返りを取り入れたりして改善していきたい。
- 書いたり話したりする活動の中で、より表現を広げていけるように語彙を豊かにすることが課題である。児童が対話を通して自分の考えを広げ深めていくためにも、取り組みを共有し日常的な指導の中で取り組んでいきたい。

「めざす児童の姿」の実現に向けて学校研究を進めてきた。児童が見通しを持って主体的に学習に取り組むことができるように、今年度は特に「課題の焦点化」に研究の重点を置いて授業づくりを進めてきた。単元構想の立て方に関して研修を行い職員間の共通理解を図ったり、共通実践内容を確認して職員間で授業を参観し助言し合ったりして取り組みを進めた。教師が B 規準を明確に持ち、単元のゴールとなるモデルを児童に示し共有するという共通理解と共通実践により、児童は見通しを持って主体的に学習に取り組むことができた。

また、対話を通して児童が自分の考えを広げている姿を見ることができた。しかし、考えを深めている姿については、児童のどのような姿が認められれば学びが深まったといえるのか、教師自身がめざす児童の姿のイメージが不十分であった。まずは教師間でしっかりとゴールを見据えた上で取り組みを進めていくことで、めざす児童の姿の実現につなげていきたい。

学力調査の結果や児童の感想などからも、語彙の乏しさを感じる。「ことばの力を磨いて学びに向かう子の育成」に向け、教師自身も語彙を磨き、手立てを共有し、共通実践を進めていきたい。